上空から見たJR成田駅西口周辺

平成30年度施政方針

本市の持つ可能性を最大限に活用

平成30年3月議会が、2月23日～3月22日に開かれ、平成30年度予算などが審議されました。同議会の冒頭で小泉市長が語った施政方針の概要をお知らせします。

施政方針演説をする小泉市長

平成19年1月の市長就任以来、「住んでよし 働いてよし 訪れてよし」の次世代に誇れる空の港まち、生涯を完結できるまちづくりに向けて、常に全力投球で市政運営に取り組んできました。今年は就任から12年目となり、3期目の総仕上げの年です。引き続き市民ニーズを的確に捉えた施策を実践し、未来を見据えた次世代に誇れるまちづくりを進めていきます。

また、今年は明治維新からちょうど150年となります。近代国家として国をつくり上げてきた先人たちに思いをはせ、本市発展のため、そして、成田の輝かしい未来の実現に向けて、市政の各分野で山積する諸課題に、果敢に取り組む覚悟です。

平成30年度の予算は、総合計画「NARITAみらいプラン」で掲げた「若者や子育て世代に魅力のあるまちづくり」「医療・福祉の充実したまちづくり」「空港と共に発展するまちづくり」の3つの基本姿勢に基づく施策を着実に推進すべく編成しました。

編成に当たっては、行政改革推進計画を確実に実践し、一層の経費節減を図るとともに、限られた財源を効率的・効果的に配分しました。この結果、一般会計は対前年度比3パーセント減の590億円、水道事業会計を含む特別会計を加えた全体は2・6パーセント減の約899億円となりました。

主要な施策への取り組み

成田空港については、平成29年6月の四者協議会で、国・県・空港会社から機能強化の見直し案や新たな提案が示されました。

これを受け、空港周辺市町は住民説明会を約100回開催し、参加した皆様から意見をいただきました。そして、それらを踏まえ、夜間飛行制限緩和案の改善などを求める再要望書を国・県・空港会社へ提出し、2月にその回答をいただいたところです。

今後も空港のさらなる機能強化について、一人でも多くの騒音地域の皆様の理解が得られるよう、周辺市町と連携しながら関係機関

と協議を進めます。

卸売市場の移転再整備事業については、従来の市場機能に加え、衛生管理の整った加工施設や日本初のワンストップ輸出拠点機能を有する高機能物流拠点施設を新たに整備します。さらに、空港滑走路に隣接する特色を生かし、インバウンド需要を獲得する新たな観光拠点として集客施設棟を整備するなど、将来を見据えた卸売市場として、2020年の開場を目指します。

国際医療福祉大学については、医学部も開学し、多くの学生が成田で学んでいます。そして、学生たちには市内の福祉施設でのボランティア活動など、保健医療・介護福祉分野で貢献をいただいています。このように大学の開設は、経済効果だけでなくさまざまな効果が見込まれることから、大学との連携に積極的に取り組むとともに、付属病院の開院に向けて協力していきます。

新鮮な食材が並ぶ成田市場

スポーツの振興については、中台運動公園体育館・水泳プールの改修工事や、大谷津運動公園野球場の再開に向けた施設整備など、スポーツ環境の整備を推進します。

また、8月に世界女子ソフトボール選手権大会が、本市を含む県内各地を会場に開催されます。その後も、2019年のラグビーワールドカップ日本大会、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催が続くことから、キャンプ受け入れに向けた態勢を整えるなど、スポーツツーリズムの推進に引き続き取り組んでいきます。

安全・安心でうるおいのある生活環境をつくる

東日本大震災以降、熊本地震などの大規模地震や、集中豪雨による浸水害・土砂災害など、全国各地でさまざまな災害が発生しています。

そこで、これらの教訓を踏まえて修正した「成田市地域防災計画」に基づき、減災対策を総合的に推進し、災害に強いまちづくりを進めます。また、災害時に市民に情報を迅速に伝達するため、Jアラートの新型受信機を導入します。さらに、「災害廃棄物処理計画」を策定し、非常災害時にも対応できる廃棄物処理体制の整備を図ります。

次に、建て替え工事を進めていた三里塚消防署庁舎の運用を6月に開始します。ほかにも、高度救助隊発足に向け、救助工作車と高度救助用資機材を更新・整備し、消防力の充実強化を図ります。

住宅関係事業では、「成田市空家等対策計画」に基づき、市内にある空き家の情報を提供する「空き家バンク」を創設し、空き家の利活用を促進します。

また、環境対策として、家庭での雨水貯留施設の設置に対し補助を行うことで、雨水を生活用水として利用していただき、雨水の集中的な流出の抑制や水質汚濁の防止を図ります。

いずみ聖地公園拡張整備では、芝生墓地を望む市民の皆様の声に応え、普通墓地として計画していた509基を芝生墓地に変更して整備します。また、八富成田斎場では、施設の長寿命化計画を策定し、火葬炉の交換工事を進めるほか、シャワー室を設置します。

公共下水道事業では、飯仲・宗吾・畑ケ田地区の汚水整備とともに、道路冠水被害が発生している寺台・土屋・大清水地区の雨水整備を実施します。

健康で笑顔あふれ、共に支え合う社会をつくる

平成29年7月、市では国の基準に基づく待機児童「ゼロ」を達成しました。しかし、待機児童には含まれない入所待ち児童がいるため、保育を必要とする全ての児童にサービスを提供できるよう取り組んでいきます。

保育士不足対策では、私立保育園への保育士給与の上乗せ補助の拡充や、保育補助者の雇用支援、地域型保育事業所の安定した運営に対する支援などを行います。

また、現在改修工事中の玉造保育園で、完了後に40人の定員増を図るとともに、新たに一時保育を実施します。工事時の代替保育園として運営している赤坂保育園は、増加する保育需要に対応し、ニュータウン内の保育園改修工事終了後も当面の間、存続します。

児童ホームについては、豊住小学校内に開設します。また、橋賀台小学校敷地でも建設工事を進め、定員の拡充や環境の向上を図ります。

病児・病後児保育施設については、既存の2施設に加え、ニュータウン内に4月11日、新たな施設を開設します。

母子保健では、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を行う「子育て世代包括支援センター」を、保健福祉館内に設置します。そして、母子健康手帳を交

安心して子育てができるまちへ

付する際に、保健師らが全ての妊婦と面談するなど、子育てしやすい環境づくりに努めます。

高齢者福祉では、在宅の独居高齢者の新たな見守り支援として「みまもりでんわサービス」を導入します。また、高齢者の外出を支援する「オンデマンド交通実証実験」では、運行台数を1台増車して7台にすることで、利便性の向上に努めます。

超高齢社会を迎え、在宅医療と介護サービスを一体的に提供できる体制を構築するため、「在宅医療・介護連携支援センター」を設置します。また、高齢者の総合相談窓口である「地域包括支援センター」では、日常生活圏域の再編成を行い、センターの増設と機能強化を図ります。

さらに、認知症の初期段階の人が速やかに適切な医療・介護を受けられるよう、「認知症初期集中支援チーム」を設置します。

また、地域医療対策として、地域の中核病院である成田赤十字病院の医療機器整備費用の一部を負担します。

ほかにも、骨髄などを提供したドナーと、そのドナーを雇用する事業者に助成金を交付することで、移植とドナー登録を推進します。

国民健康保険制度は4月から、今までの市町村単位での運営から、県単位へ広域化が図られます。県の示す標準保険料と市の保険税に大きな乖離（かいり）がありますが、市民の負担増に配慮し、保険税率は据え置きとします。また、医療費の適正化や保健事業の一層の充実に取り組みます。

高齢者の家族も相談できる地域包括支援センター

地域文化を生かし、未来を担う心豊かな人材を育む

学校教育に関する施策を総合的にまとめた「輝くみらいＮＡＲＩＴＡ教育プラン」を基に、子どもたちが将来に夢と希望を持ち、自分の進むべき道を切り開く力を育む教育を推進します。

一方で、多忙を極める教職員の負担軽減を図るべく、部活動の在り方を含めた働き方改革について検討を進めるとともに、学校支援の充実に取り組みます。

本市が全国に先駆けて取り組んできた児童・生徒の英語教育は、2020年から全国でも小学3年生から開始されます。

今後もこれまで培った英語教育のノウハウを生かし、英語によるコミュニケーション能力の育成をさらに推進していきます。

また、特別支援教育のさらなる充実を図るため教育センターに配置している、就学相談を行う学校適応専門指導員や学校に対して特別支援教育に関する指導・助言を行う巡回指導員に加え、巡回看護師を増員し、児童・生徒の状況に応じた支援に努めます。

外国人英語講師と英語で談笑

学校・家庭・地域が一体となって子どもを育む体制づくりでは、地域住民が学校支援ボランティアとして参画する「学校支援地域本部事業」の取り組みを順次、拡大していきます。

学校施設整備では、2021年の開校を目標に、大栄地区5校の統合小学校と中学校の一体型校舎を建設するため、グラウンドの整備や校舎建設地の造成工事などを引き続き行います。また、本城小学校の増築工事、橋賀台小学校の大規模改造工事を実施するとともに、中学校のトイレ洋式化を進めます。

学校給食については、温かい給食の提供やアレルギー対応を可能とするため、親子方式による共同調理場を順次、設置しています。平成30年度からは、美郷台小学校の敷地内に整備を進めます。

文化芸術の振興については、観光や産業、国際交流などとの連携を視野に入れた「文化芸術推進基本計画」を策定し、文化芸術振興施策を総合的・計画的に推進するとともに、文化芸術を活用した魅力発信に努めます。

空港の機能を最大限に生かし、魅力的な活気あふれる都市をつくる

今年、成田空港は開港40周年を迎えます。2020年には、東京オリンピック・パラリンピックの開催、国際医療福祉大学成田病院の開院、新生成田市場の開場が控えています。このような中、空港の機能強化や医療関連産業の集積など、新たな開発需要や人口増加に適切に対応していくための都市機能や住環境の整備、付属病院と連携した新たな都市基盤整備に向けて基本調査を実施していきます。

たくさんの旅行客が行き交う成田空港

都市計画では、まちづくりと連携した持続可能な地域公共交通ネットワークの形成を図るため、「地域公共交通網形成計画」の策定に取り組みます。

公園整備では、7月にウイング土屋地先の広沼街区公園で、ドッグランの供用を開始します。

道路整備では、都市計画道路であるニュータウン中央線の、成田北高校前交差点から県道成田安食線バイパスまでの延長900メートルの区間が、平成30年度中に開通する見通しです。

活力ある産業を育て、にぎわいや活気を生み出すまちをつくる

成田山新勝寺が開基1080年を迎え、歌舞伎役者・市川海老蔵さんによる御練りや市民大提灯行列などの記念行事が実施されます。市でも、「成田市御案内人市川海老蔵プロジェクト」や「成田伝統芸能まつり」など日本の伝統芸能・文化を活用した魅力発信に引き続き努めます。

また、「ゆるキャラグランプリ2017」でグランプリを獲得した、成田市観光キャラクターうなりくんは、メディアから引く手あまたの状況です。今後もうなりくんを最大限に活用して、さらなる観光客の誘致を図っていきます。

自動車の成田ナンバーの図柄入りプレートは、航空機のシルエットと、交付される7市町を虹色の航跡で表現し、「飛行機が飛ぶ街」をイメージしたデザインに決まりました(下図)。国土交通省による視認性などの審査を経て、10月頃から交付予定です。

8月に世界女子ソフトボール選手権が開催

ゆるキャラグランプリの優勝を報告

商工業については、中小企業資金融資制度を拡充することで、本市の産業の中核を担う中小企業の活動を支援します。

さらに、地域の事業者に経済波及効果をもたらす事業を推進するため、「地域未来投資促進法」に基づく基本計画を策定します。

農業については、国による米の生産数量目標の配分は平成30年産以降廃止されますが、需給バランスと価格の安定のため需要に応じた米生産に対する取り組みを支援していきます。また、「人・農地プラン」の策定を積極的に推進するとともに、農地中間管理事業の活用や農地利用集積円滑化団体などと連携して、農地の集積と規模拡大を促進していきます。

さらに、卸売市場の輸出拠点化を推進するため、農業者に対し輸出先の需要者から求められる「グローバルGAP(ギャップ)」などの認証制度の周知と理解促進を図ります。

市民サービスを充実させ、持続可能な自治体運営を行う

区・自治会・町内会など地域団体の活動を支援し、市民主導でまちづくりに取り組む地域力の醸成を図るとともに、閉校となった旧中郷小学校校舎を新たなコミュニティー施設として整備します。

また、広報なりた、市ホームページ、会員制交流サイト(SNS)などの媒体を活用し、利用者のニーズに合わせた情報提供に努めます。同時に、騒音地域におけるケーブルテレビの視聴エリア拡大に、引き続き取り組みます。

平成29年12月、前人未到の永世七冠の偉業を達成した羽生(はぶ)善治棋聖に、将棋界で初となる国民栄誉賞が授与されました。

羽生さんは以前、「非常に強くて勢いのある若者がたくさん出てきたことで、大きな刺激になっており、これからも自分の将棋に新しい感覚を取り入れながらやっていきたい」と語っていました。

近年、戦術が大きく変わってきた将棋界において、20年以上にわたり常にタイトルを保持し、偉業を達成できたことは、たゆまぬ努力と精進、そして将棋への情熱と常に新しい発想や感覚を取り入れてきた賜物であると思われます。

市政を預かる私も「住んでよし働いてよし 訪れてよし」の次世代に誇れる空の港まち、生涯を完結できるまちづくりに向け、たゆまぬ努力と情熱により市民の皆様のニーズや課題を的確に捉え、既存の枠にとらわれない柔軟な発想により本市のポテンシャルを最大限に生かし、これからの成田を担う子どもたちが誇りを持てる、未来を見据えた施策に果敢に取り組んでいきます。